

30.12.19 日経

信大系の精密林業計測に出資

信州大学は18日、同大の研究成果をもとに設立された精密林業計測（長野県南箕輪村）に、三井住友信託銀行が同日付で約2千万円を出資したと発表した。出資比率は約2・3%。同社はドローンを使用して空中から森林の資源情報を高精度で計測するサービスを手がける。同行が商品化を進める「森林信託」に、森林調査で協力する。

信州大は上空から撮影した森林の写真やレーザー照射データを独自の手法で解析することに成功した。精密林業計測はその成果を活用するために2017年に設立された。

30.12.19 信毎

信大発ベンチャー・精密林業計測 森林調査用ドローン購入へ

三井住友信託銀の出資発表

信州大（松本市）は18日、なレーザー計測器を搭載した無人小型機ドローンを使ったドローン1機の購入費に調達した森林調査の技術を持つ信大発ベンチャー、精密林業計測上伊那郡南箕輪村）の第三者割当増資を三井住友信託銀行が引き受け、2千万円を出資したと発表した。精密林業計測は、高精度な森林調査に必要な

きる精密林業計測の測量技術が、森林の管理に不可欠と判断し、出資を決めた。同社の資本金は、増資により2996万円になった。

精密林業計測は信大農学部（南箕輪村）の加藤正人教授（森林計測学）らが2017年5月、森林調査を大幅に省力化するため開発した技術を実用化するため設立した。加藤教授は「林業を成長産業へと発展させ、地域の雇用創出につなげたい」としている。